

日本人の韓国及び韓国人に対する意識

—金沢大学学生の「初習言語」¹⁾学習者間の比較を通して—

尹 秀美・南 相瓊

1. はじめに

日韓両国民の相互意識については、これまで両国のマスメディアなどによって世論調査が行われてきた。2012年9月29日～10月1日に朝鮮日報社と毎日新聞社が行った「韓日共同世論調査」によると、日韓相互の好感度は、日本人の対韓国が47%、韓国人の対日本が36%で、2002年7月以来最低値となった²⁾。その主な要因として、竹島（韓国名：独島）をめぐる一連の事件であることを同調査は明らかにした³⁾。この調査は当時の韓国の李明博大統領が竹島（独島）を訪問した翌月に行われたことから領土問題が両国民に大きく影響を与えたと思われる。

このような日韓間の国民の感情の悪化は今年（2013年）に入ってから改善の兆しは見えていない。それどころかさらに悪化していることが、今年の3月～4月の調査で明らかになった。日本の非営利組織である言論NPOと韓国のEAI（東アジア研究院）が共同で、2013年3月～4月に、日韓両国民に対する世論調査を行ったが、それによると、相手国に対する印象について「良い」「どちらかといえば良い」と答えたのを合わせると、日本人は31.1%、韓国人は12.2%に止まった。さらに、「良くない」「どちらかといえば良くない」は、日本人が37.3%に対して韓国人は76.6%と日本人の2倍を超えている。1年足らずで互いのイメージがさらに悪化している。

このような日韓間の相互意識を踏まえて、本研究では、日本人大学生、とくに金沢大学学生に焦点を当て、彼（彼女）らが韓国及び韓国人に対する意

識調査を行った。調査対象者として金沢大学学生を選んだ理由は、先行研究で述べるように東京大学を中心とした東京周辺の大学生の意識調査は行われているが、北陸3県（石川、福井、富山）の学生が6割以上を占めている金沢大学学生の意識調査は行われたことがなかったことにある。

2. 先行研究と本研究の特徴

これまで日本における韓国及び韓国人に対する意識調査はいくつかある（生越, 2004 ; 2006 : 林・姜, 2007 : 呉・金, 2009）。その中で本研究と関連する先行研究は、生越(2004 ; 2006)である。両方とも日韓両国の大学生の相互意識を言語学習（日本語と韓国語）との関係に着目して調査・分析を行ったものである。生越(2004)は韓国語で、生越(2006)は日本語で書かれたものであり、生越(2004)は韓国人に対する分析も試みてはいるものの詳しい分析は行われていない。したがって、ここでは生越(2006)のものについて、本研究と関連する内容を中心に検討する。

生越(2006)は、2003年10月～11月にかけて、東京大学及び東京周辺の大学の学生と韓国の中央大学及び翰林大学の学生を調査対象者に、両国の相互イメージについてその形成要因を調査・分析した。それによると、韓国に対する好感度は、韓国語学習経験者のうち約10%の学生が「とても良い」、約50%が「良い」と答えている。約6割の学生の韓国に対するイメージは肯定的であった。反面、韓国語未学習者は、「とても良い」が約2%、「良い」が約20%に止まった。韓国語未学習者のうち、「特に他の国と変わらない」と答えた人が約58%で一番多かったが、学習経験者に比べてイメージが悪いというより、韓国に対する関心が低いからであろうと考察している。

また、生越(2006)は、日本人の韓国に対するイメージ形成要素についても分析を行い、全体的にマスコミの報道に大きく影響されていることを明らかにしている。そして、韓国語学習者はさまざまな観点からイメージ形成がなされているが、未学習者は情報が限定的かつ受動的であると分析している。

以上の先行研究を踏まえ、本研究では次のような点を明らかにする。

- 1) 金沢大学学生の韓国及び韓国人に対する関心度や好感度はどうか。
 - 2) 韓国語学習者と他の言語学習者（中国語、フランス語、ドイツ語）との間で、韓国及び韓国人に対する関心度や好感度に相違点はあるか。
 - 3) 性別により韓国及び韓国人に対する関心度や好感度は異なるか。
 - 4) 韓国及び韓国人に対するイメージ形成要因は何であるか。
- これらを明らかにすることに、本研究の特徴がある。

3. 調査方法及び調査対象者の特性

3.1. 調査方法

2013年7月20～30日にかけて、2013年度前期初習言語（朝鮮語・中国語・フランス語・ドイツ語）の日本人履修生及び経済学類の講義「東アジア社会情報論A」（以下、「東アジア」と省略する）の履修生に対して、「韓国・韓国人に対する意識調査」というタイトルでアンケート調査を行った（アンケートの内容については、本稿の最後に添付する）。本調査に「東アジア」の履修者を加えた理由は、初習言語学習者間の意識をより客観的に分析するためである。

アンケート調査は、各科目の授業時間を利用して担当教員の立会いの下で行われた。同調査はより公平な答えを得るため無記名とした。

3.2. 調査対象者の特性

本研究の調査対象者は、2013年度前期初習言語（朝鮮語・中国語・フランス語・ドイツ語）の日本人受講生及び経済学類の講義「東アジア」の受講生である。

初習言語履修者はほとんどが1年生である。英語を除く他の言語の重複履修者はいない。

一方、「東アジア」の履修生は2年生以上で、1年生の時に上記の言語科目のいずれかを履修した人も含まれている。「東アジア」は韓国人教員によって行われ、韓国を中心とした東アジア社会についての講義である。

表1は、調査対象者の特性を示したものである。

表1 調査対象者の特性

受講科目	朝鮮語		中国語		フランス語		ドイツ語		東アジア		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
性別												
性別人数(名)	27	40	54	43	44	61	36	26	27	32	188	202
総人数(名)	67		97		105		62		59		390	
年齢(歳)	19.06		18.62		18.70		18.42		20.10		18.98	
出身地(%)	石川(31.34)		石川(30.93)		石川(26.67)		石川(29.03)		石川(30.51)		石川(29.49)	
	福井(18.33)		富山(17.53)		富山(13.33)		富山(16.13)		福井(15.25)		福井(13.59)	
	富山(11.94)		福井(6.19)		福井(10.48)		福井(9.68)		富山(5.08)		富山(13.33)	
	その他(38.22)		その他(44.33)		その他(49.52)		その他(45.16)		その他(49.15)		その他(43.59)	
専攻(%)	経済(41.79)		経済(46.39)		国際(30.48)		法(51.61)		経済(81.36)		経済(45.38)	
	人文(14.93)		地域(28.87)		経済(22.86)		経済(29.03)		国際(18.64)		地域(11.54)	
	地域(13.43)		人文(9.28)		人文(11.43)		地域(12.90)		その他(0)		法(8.21)	
	その他(29.85)		その他(15.46)		その他(44.76)		その他(6.45)				その他(34.87)	

調査対象者は、2013年度前期初習言語履修者の男子161名と女子170名、「東アジア」履修生の男子27名と女子32名の合計390名である。初習言語履修者の平均年齢は18.68歳で、「東アジア」履修者の平均年齢は、20.10歳である。初習言語科目履修者間の人数に少しばらつきはあるが、年齢には大きな差は見られない。

初習言語科目及び「東アジア」履修者の出身地は、どちらも約5割以上が北陸3県(石川、福井、富山)であるが、その中でも石川県が約3割(29.49%)で一番多い。金沢大学所在地が石川県であることが大きな要因であろう。言語別にみると、北陸3県出身者が「朝鮮語」の場合、6割強で一番多く、「フランス語」「中国語」「ドイツ語」のいずれも5割強となっている。

初習言語科目履修者を専攻別に見ると、経済学類が45.38%で一番多く、次に地域創造学類が11.54%、法学類が8.21%の順である。「東アジア」履修者の専攻は約8割以上が経済学類で、残りの約2割は国際学類である。

4. 韓国・韓国人に対する関心度及び好感度

4.1. 全体的結果

4.1.1. 韓国・韓国人に対する関心度

図1は、韓国・韓国人に対する関心度について全体的な結果を表したものである。

関心度	大変有	関心有	どちらでも	関心無	全然無	計
人数(名)	44	157	108	53	28	390(名)
%	11.22	40.05	27.55	13.52	7.14	100(%)

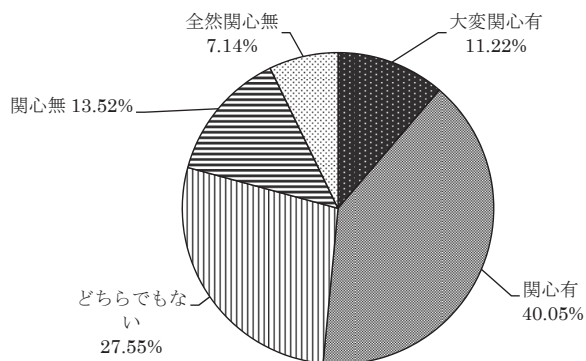


図1 韓国・韓国人に対する関心度

「韓国・韓国人に関心がありますか」という質問に対して、「関心がある」と答えた人が40.05%で一番多く、これに「大変関心がある」と答えた11.22%を合わせると、5割以上の学生が韓国及び韓国人に関心があると答えている。一方、「関心がない」(13.52%)及び「全然関心がない」(7.14%)と答えた人を合わせると2割強であるが、「どちらでもない」(27.55%)と答えた人の割合よりやや低い。

韓国及び韓国人に対する関心度についてまとめると、「ある」と肯定的に回答した人が5割以上で、「ない」と否定的に答えた人が2割である。

4.1.2. 韓国及び韓国人に対する好感度

本研究では、韓国及び韓国人に対して関心度と好感度を分けて調査を行った。関心があることと好感を持っていることは異なると考えたからである。また、国と国民をも分けて「韓国」と「韓国人」に対する好感度について別々に設問を設けた。

(1) 韓国に対する好感度

「あなたの韓国に対するイメージはどうですか」という質問について、図 2 のような結果が得られた。

好感度	大変良い	良い	どちらでも	悪い	大変悪い	計
人数(名)	16	127	187	35	25	390(名)
%	4.08	32.40	47.70	8.93	6.38	100(%)

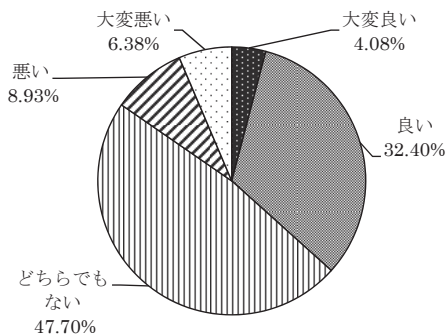


図 2 韓国に対する好感度

韓国に対する好感度については、「大変良い」が 4.08%、「良い」が 32.04% であり、両方を合わせると、36%強の人が韓国に対してよいイメージを持っていると答えている一方、「悪い」が 8.93%、「大変悪い」が 6.38%で、両方を合わせると、15%強が悪いイメージを持っていることがわかった。特徴的なのは、「どちらでもない」と答えた人が 47.7%で一番多かったことである。

上記(4.1.1.)の関心度で、「(大変) 関心がある」と答えた人が約5割であり、「どちらでもない」が27.55%であったことを考えると、関心があってもそれが必ずしも好感度につながらないということが明らかになった。

先行研究の生越(2006)では、肯定的なイメージを持った人が41.2%、否定的なイメージを持った人が13.4%、肯定的でも否定的でもないイメージを持った人が45.6%であったが、本調査ではそれより肯定的なイメージが若干減少している。東京及びその周辺と北陸という地域的な差や生越と本調査との間で10年間という時間的な差はあるものの両者に大きな変化は見られない。

しかし、本調査を上記の日本の言論NPOと韓国のEAIの共同世論調査結果と比較すると、肯定的なイメージが金沢大学学生の方が5ポイント程高い。とくに注目すべき点は、韓国に対する否定的なイメージが、言論NPOとEAIの調査では37.3%であったのに対して、本調査では15.3%に止まっていることである。その要因については、本研究の調査対象者は大学生に限定していて、下記(5.2.2)の「韓国・韓国人に対する好感度とイメージ形成の要素」で分析しているように、金沢大学学生のうち肯定的なイメージを持っている人は、韓国料理、映画やドラマ、K-pop、大学での教育、韓国人教員、韓国での知り合い、韓国人留学生などにより、肯定的影響を受けていることが考えられる。

(2) 韓国人に対する好感度

図3は、韓国人に対する好感度についての結果である。質問は「あなたは韓国人についてどう思いますか」である。

好感度	大好き	好き	どちらで	嫌い	大嫌い	計
人数(名)	19	95	231	32	13	390(名)
%	4.85	24.23	58.93	8.16	3.32	100(%)

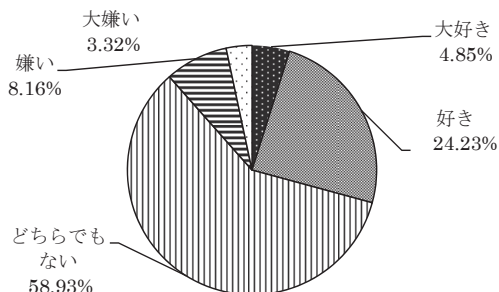


図3 韓国人に対する好感度

図3に示されたように、韓国人に対する好感度について、「大好き」が4.85%、「好き」が24.23%で、両方を合わせると約29%が、韓国人に好感を持っていると答えている。一方、「嫌い」は8.16%、「大嫌い」3.32%で、両方合わせると11%強となる。「どちらでもない」と答えた人は58.9%で一番多かった。

これを「韓国」に対する好感度と比較してみると、韓国への肯定的なイメージが36.5%だったが、「韓国人」に対してはそれより7.5ポイント低かった。つまり、韓国人に対してより、韓国という国についての好感度が少し高いことがわかった。その要因としては、韓国の文化などに比べ、実際の韓国人について知る機会が少ないためであると考えられる。「どちらでもない」の答えが「韓国」に比べ「韓国人」の方が約11ポイント高いのを見ても分かる。

一方、否定的なイメージについては、「韓国」が15.3%だったが、「韓国人」はそれより約4ポイント低く、それほど大きな差は見られない。

4.2. 履修科目別結果

4.2.1. 韓国及び韓国人に対する関心度

韓国語学習が韓国及び韓国人に対する関心度や好感度に影響を与えているか否かについて調べるため、履修科目別結果を示したものが図4である。

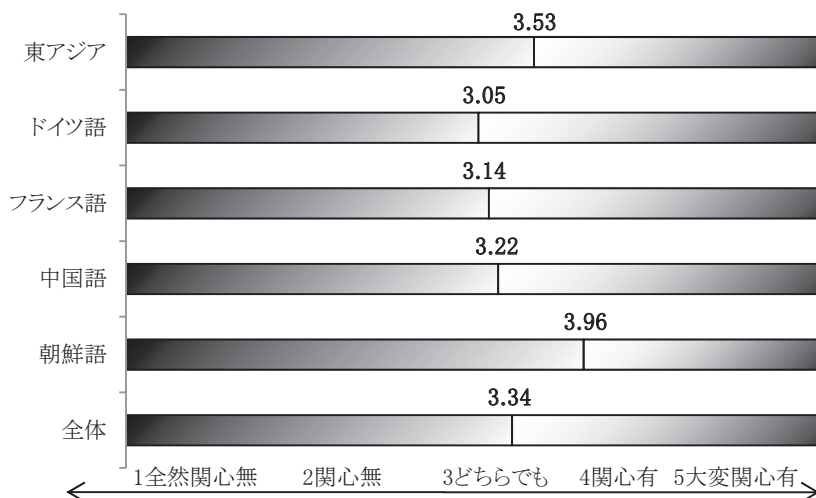


図4 履修科目別韓国・韓国人に対する関心度

図4は、「韓国・韓国人に関心がありますか」という質問に対して、それぞれ「大変関心がある」「関心がある」「どちらでもない」「関心がない」「全然関心がない」を5から1までの数字に切り替え、平均値を表したものである。平均値が高ければ高いほど韓国及び韓国人に関心があり、低ければ低いほど関心がないことを表す。

図4でわかるように、まず、全体平均値は3.34で、「3「どちらでもない」より若干高いことが分かる。しかし、履修科目別に韓国及び韓国人に対する関心度を見ると、それにばらつきがある。朝鮮語履修者が、3.96で関心度が一番高く、ほぼ4「関心がある」に近い。また、全体の3.34を0.5ポイント以上上回る。次に、「中国語」が3.22で、「フランス語」が3.14、「ドイツ語」が3.05の順で、どちらも全体平均値を下回る。

一方、「東アジア」履修者は3.53で朝鮮語よりは低いですが、他言語履修者よりは高く平均値よりもやや高い。韓国人教員による韓国を中心とした東アジア社会についての講義内容がよい影響を与えたのではないかとと思われる。

4.2.2. 韓国・韓国人に対する好感度

(1) 韓国に対する好感度

図5は、韓国に対する好感度を履修科目別に表したものである。「韓国についてどのようなイメージを持っていますか」という質問から得られた答えに対して、それぞれ「大変良い」「良い」「どちらでもない」「悪い」「大変悪い」を5から1までの数字に切り替え、平均値を表したものである。平均値が高ければ高いほど韓国について良いイメージを、低ければ低いほど悪いイメージを持っていることを表す。

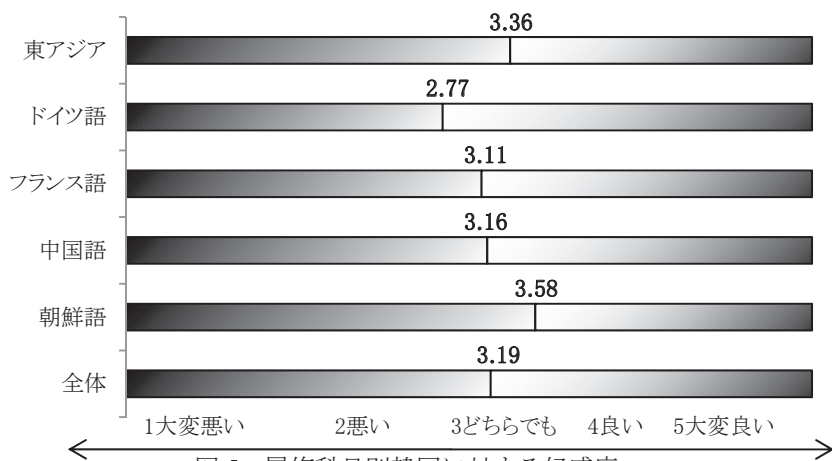


図5 履修科目別韓国に対する好感度

韓国に対する好感度について、「朝鮮語」履修者と他言語履修者及び「東アジア」履修者を合わせた全体平均値は3.19で、上記の全体関心度の3.34より若干低い。また、すべての履修科目において、関心度より好感度の平均値がやや低かった。ところが、履修科目別に見た韓国に対する好感度の順番は上記の関心度の順と同じである。

「朝鮮語」履修者の韓国に対する好感度の数値は3.58で一番高く、「中国語」が3.16、「フランス語」が3.11、「ドイツ語」が2.77の順である。全体的に、上記の韓国及び韓国人に対する関心度よりその数値が少し低かったが、

「ドイツ語」を除くすべての受講科目で「どちらでもない」の数値3より高かった。

一方、「東アジア」履修者の韓国に対する好感度の数値は3.36で、「朝鮮語」履修者よりはやや低い、他言語の履修者よりは高く、全体平均値よりも高かった。その要因は関心度と同じく、大学での教育が韓国に対する好感度に影響を与えたものと思われる。

これらの調査結果を先行研究の生越(2004 ; 2006)と比較検討を試みる。生越が調査したのは2003年で本研究調査とは10年間の時間の差があるので、大学生の意識に変化があるか否かを調べるため、金沢大学学生の朝鮮語履修者と他言語履修者の韓国に対する好感度の回答を項目別に調べた。本研究と生越の調査では北陸と東京という地域差はあるが、調査対象者が同じ大学生であるという点で比較が可能ではないかと考えたからである。

図6と図7は、それぞれ、金沢大学学生の朝鮮語履修者と他言語履修者の韓国に対する好感度について、「大変良い」「良い」「どちらでもない」「悪い」「大変悪い」の答えた人の割合をグラフで示したものである。

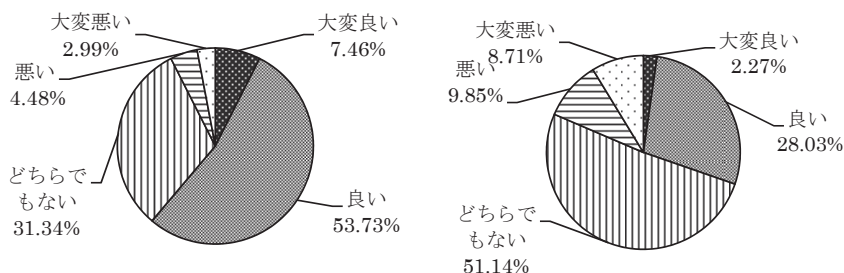


図6 朝鮮語履修者の韓国に対する好感度 図7 他言語履修者の韓国に対する好感度

朝鮮語履修者は、「大変良い」が7.46%、「良い」が53.73%で、両方合わせると、6割以上の方は韓国に対して良いイメージを持っている。これを生越(2004 ; 2006)と比較してみると、約6割でほぼ同様な結果となっている。生越(2004 ; 2006)は、同論文で、韓国語学習者の韓国に対するイメージ形成の

要因はメディアのみに限られていないことや、韓国語教員など韓国語非学習者は普段接することができない要素などが影響すると分析しているが、本研究でも同様な結果が得られた。

他言語履修者(韓国語非学習者)については、「大変良い」が 2.3%、「良い」が 28%で両方を合わせると、30%以上の方が韓国に対して良いイメージを持っていると答えた。生越(2004 ; 2006)では、韓国語非学習者の「大変良い」が約 2%、「良い」が約 20%で、両方を合わせると、約 22%である。生越が調査した 2003 年より日韓関係が悪化している 2013 年 7 月の方が韓国に対する好感度が上がっている。それが東京と北陸の地域差によるものかはわからないが、少なくとも次のようなことは言えるだろう。すなわち、日本で、2003 年 4 月から NHK で韓国ドラマ「冬のソナタ」が放映されて以来急速に韓流ブームになったが、それは中高年層の女性を中心に始まったものである。それに対して、近年は若者の間ではとくに K-pop に対する関心度は著しく高い。そのため、韓国語の学習経験がない若者の間でも韓国に対する好感度が、10 年前に比べ落ちないどころか少し上がったのではないかと考える。

(2) 韓国人に対する好感度

図 8 は、金沢大学学生の韓国人に対する好感度を履修科目別に表したものである。「韓国人についてどのようなイメージを持っていますか」という質問に対して、それぞれ「大変好き」「好き」「どちらでもない」「嫌い」「大変嫌い」の答えを 5 から 1 までの数字に切り替え、平均値を表したものである。平均値が高ければ高いほど韓国人について良いイメージを、低ければ低いほど悪いイメージを持っていることを表す。

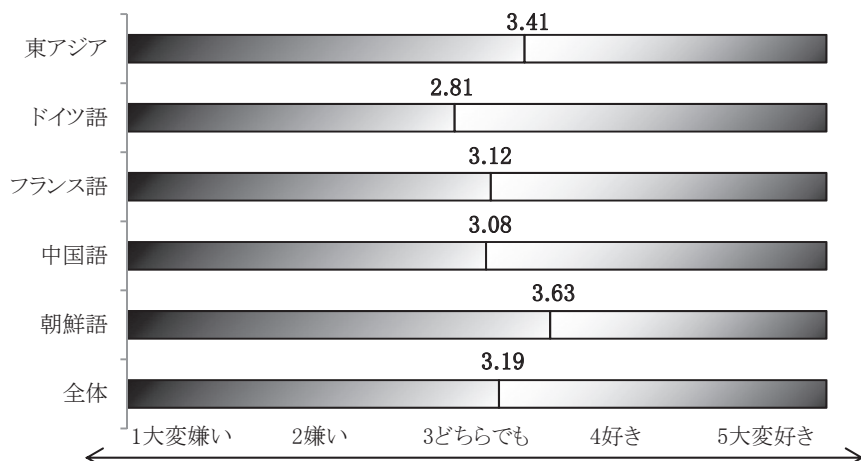


図8 履修科目別韓国人に対する好感度

韓国人に対する好感度について、「朝鮮語」履修者と他言語履修者及び「東アジア」履修者を合わせた全体的平均値は、韓国に対する好感度と同様 3.19 であるが、履修科目別に見ると、「中国語」はその数値が下がり、他のすべての履修科目ではその数値が上がっている。

履修科目別韓国人に対する好感度の結果についても、韓国及び韓国人に対する関心度や韓国に対する好感度と同じく、韓国語学習経験のある「朝鮮語」が 3.63 で一番好感度が高く、続いて「東アジア」が 3.41、「フランス語」が 3.12、「中国語」が 3.08、「ドイツ語」が 2.81 の順であった。

韓国人に対する好感度についても、韓国語学習の経験があるか否かによって、その結果が大きく異なっている。したかつて、韓国語学習や韓国語教員を含めた韓国人との交流が韓国人に対する好感度に影響を与えていることが明らかになった。今まで、韓国語や韓国に関する学習が、韓国及び韓国人における関心度・好感度に影響を与えることを確認してきた。ところが、韓国人大学生を調査対象者に、日本及び日本人に対する意識調査を行った南(2009)によると、韓国人大学生の場合日本語の学習経験の有無と日本及び日本人に対する好感度とは相関関係が見られなかった。関心度と好感度は密接

に関係することが本研究の調査結果で分かったが、韓国における日本に対する関心度はかなり高いため、日本語を学習するかしないかによる関心度の変化はないからであろうと考えられる。

4.3. 男女別結果

4.3.1. 韓国及び韓国人に対する関心度と好感度

図9～11は、「韓国・韓国人に対する関心度」「韓国に対する好感度」「韓国人に対する好感度」をそれぞれ調査対象者の性別によってどう異なるかを示したものである。

男女を合わせた全体の結果と同様、韓国及び韓国人に対する関心度と好感度についての答えを、「大変関心がある(大変良い・大変好き)」から「全然関心がない(大変悪い・大変嫌い)の答えを5から1までの数字に切り替え、その平均値を表した。平均値が高ければ高いほど韓国及び韓国人に対する関心度と好感度が高く、低ければ低いほど関心度や好感度が低いことを表している。

図9～11から分かるように、すべての履修科目を合わせた数値は全体的に男子より女子の方が高い。また、すべての履修科目別でも、女子の平均数値が高く、つまり男子より女子の方が韓国及び韓国人に対して関心があり、好感を持っていることが明らかになった。「韓国・韓国人に対する関心度」を男女別に表した図9を見ると、まず、すべての履修科目を合わせた全体的平均値は、男子3.05、女子3.61で、その差は0.56ポイントである。男子の場合、「3『どちらでもない』」に近く、女子の場合、「4『関心がある』」に近い。履修科目別性別の結果を見ると、「朝鮮語」の女子履修者の数値は4.25で圧倒的に高く、唯一、「4『関心がある』」を上回っている。これは大きな特徴といえる。次に、「中国語」が3.44で高く、「フランス語」と「ドイツ語」は同じく3.31である。

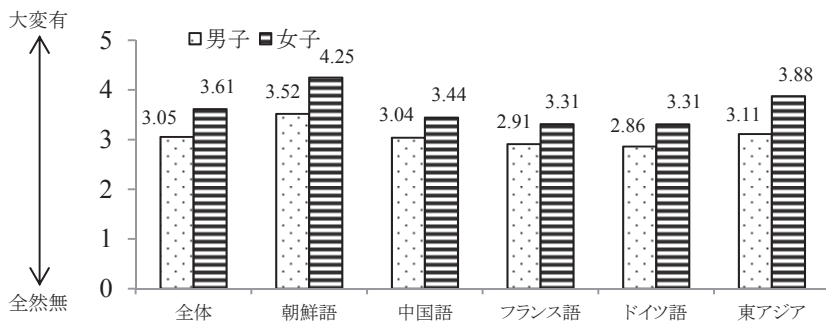


図9 男女別韓国・韓国人に対する関心度

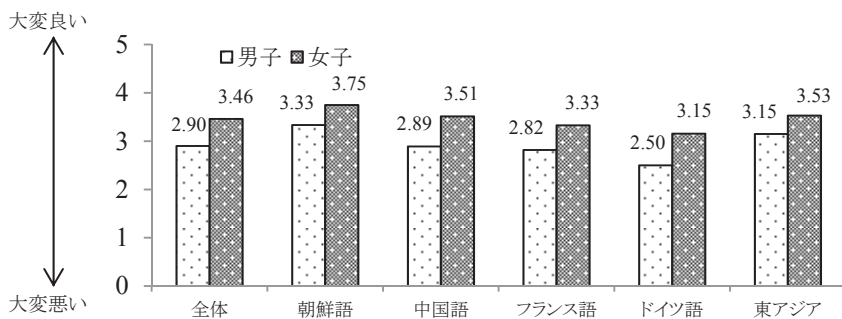


図10 男女別韓国に対する好感度

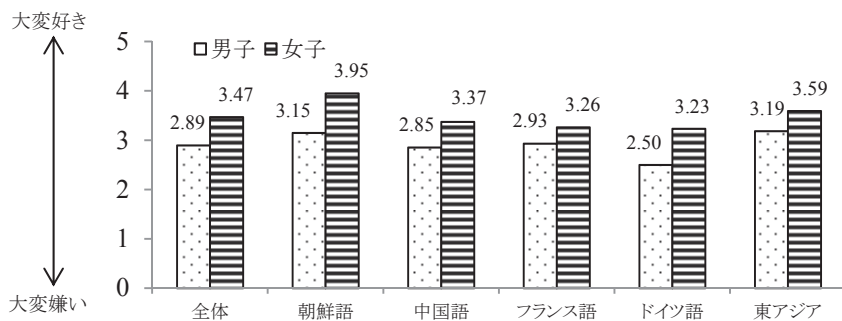


図11 男女別韓国人に対する好感度

「朝鮮語」の女子履修者の中では、高校時代から K-pop など韓国に興味があり、「朝鮮語」を履修している人々と、「朝鮮語」を履修することによって韓国及び韓国人に対する関心を持つようになった人があることが、今回の調査結果に反映されていると考えられる。「東アジア」の場合、女子学生が「朝鮮語」履修者よりは低い、他言語よりは高く、3.88 となっている。

韓国・韓国人に対する関心度の男子学生については、「朝鮮語」が 3.52、「中国語」が 3.04、「フランス語」が 2.91、「ドイツ語」が 2.86 の順となっている。「フランス語」とドイツ語の男子学生の場合、他のグループと比べて唯一 3 以下に止まった。「東アジア」の場合、男子学生は、「東アジア」の女性と同じく、「朝鮮語」に次いで関心度(3.88)が高かった。

図 10 と図 11 で、全体的結果や履修科目別結果を確認したように、韓国及び韓国人に対する関心度と好感度は同じ傾向を持っている。たとえば、韓国及び韓国人に対して関心度が高い朝鮮語履修者は、韓国及び韓国人に対する好感度も高い。このような傾向は、男女別の韓国(図 10)及び韓国人(図 11)に対する好感度においても似ている。

すべての履修科目を合わせた全体的男女の差はそれぞれ 0.56 ポイント(男:2.90、女:3.46)と 0.58 ポイント(男:2.89、女:3.47)であり、韓国及び韓国人に対する好感度も男子より女子の方が高い。女子は全履修科目において韓国及び韓国人に対する好感度の数値が「3『どちらでもない』」より高いのに対して、男子の全体的平均は、3 の「どちらでもない」を若干下回っていることも明らかになった。

履修科目別に見ると、男女とも「朝鮮語」が一番高く、男子においては、「朝鮮語」と「東アジア」だけが「3『どちらでもない』」を上回っていて、他の言語はすべて「3『どちらでもない』」より低い。とくに「ドイツ語」の男子は、韓国と韓国人の両方とも、「2『悪い(嫌い)』」と「3『どちらでもない』」の中間となり、かなり低かった。

5. 韓国及び韓国人に対するイメージ形成の要素

ここでは、韓国及び韓国人に対するイメージ形成の要素について分析を行う。

アンケートでは、韓国及び韓国人に対するイメージ形成に影響を与えていると考えられる以下のような 26 項目を提示し、それぞれ影響の程度を、「大」「中」「小」「無」の中から一つ選んでもらった。

①韓国の伝統文化 ②韓国料理 ③韓国の映画やドラマ ④K-pop ⑤韓国の芸能人やスポーツ選手 ⑥韓国旅行 ⑦韓国での語学研修 ⑧韓国留学 ⑨日本の新聞や雑誌 ⑩日本のテレビニュースや情報番組 ⑪インターネット上の情報 ⑫Facebook などの SNS ⑬高校までの教育 ⑭大学での教育 ⑮韓国人教員 ⑯韓国人の知り合い ⑰韓国人留学生 ⑱韓国人観光客 ⑲現在の韓国の経済 ⑳韓国製の商品 ㉑韓国企業の活動 ㉒過去の日韓関係 ㉓日本と韓国の領土問題 ㉔在日韓国・朝鮮人 ㉕韓国と北朝鮮の関係 ㉖日本と北朝鮮の関係

5.1. 韓国語学習とイメージ形成の要素

図 12 は、韓国語学習とイメージ形成の要素の相関関係について図で示したものである。韓国及び韓国人に対するイメージ形成に影響を与えていると考えられる 26 個の項目について、影響の程度の「大」「中」「小」「無」を数字の 4 から 1 までに切り替えた。つまり、数値が高ければ高いほどその要素項目からの影響が多いことを表している。

図 12 を見ると分かるように、朝鮮語履修者と他言語履修者は、「韓国人教員」「大学での教育」の項目においてその差が大きく、他言語履修者に比べ朝鮮語履修者の方がより多く影響を受けたと答えている。金沢大学での「朝鮮語」の授業は、すべて韓国人教員によって行われているが、韓国語学習者が韓国及び韓国人に対するイメージを形成する際に、韓国語教育や韓国人教員がかなり影響を与えていることがわかる。

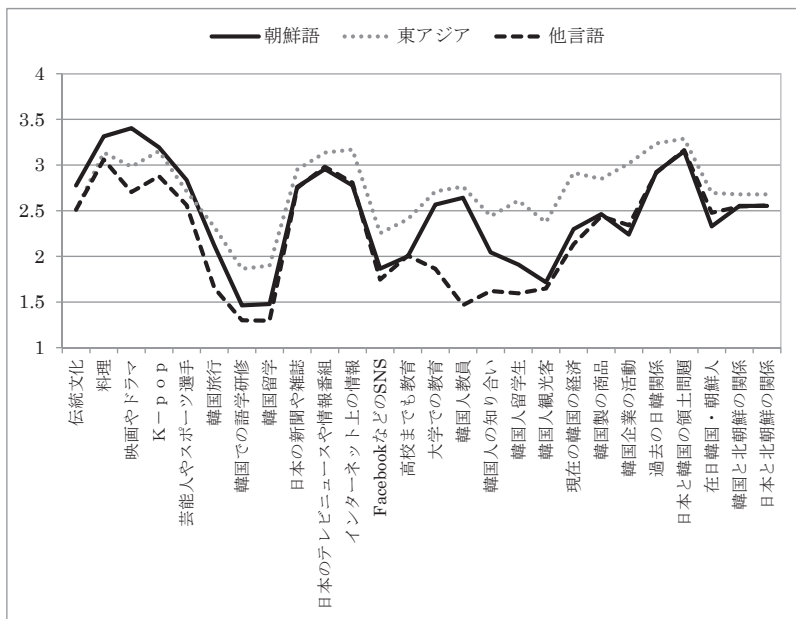


図 12 韓国語学習とイメージ形成の要素

また、「映画やドラマ」「K-pop」「料理」項目においても、他言語履修者者に比べ、朝鮮語履修者の方がより多く影響を受けたと答えた。これらの差は、「大学での教育」や「韓国入教員」に比べると大きくないが、文化面においても韓国語学習者への影響が高いことを示している。

一方、「東アジア」履修者は、全体的に朝鮮語履修者のそれと同じパターンではあるが、「伝統文化」「料理」「映画やドラマ」「K-pop」「芸能人やスポーツ選手」の5項目を除くすべての項目で「朝鮮語」履修者を上回っている。とくに、「韓国人の知り合い」「韓国人留学生」「韓国人観光客」「現在の韓国の経済」「韓国製の商品」「韓国企業の活動」などでは大きな差が見られた。

5.2. 韓国・韓国人に対する関心度及び好感度とイメージ形成の要素

5.2.1. 韓国及び韓国人に対する関心度とイメージ形成の要素

図 13 は、韓国及び韓国人对する関心度とイメージ形成の要素の相関関係を示したものである。

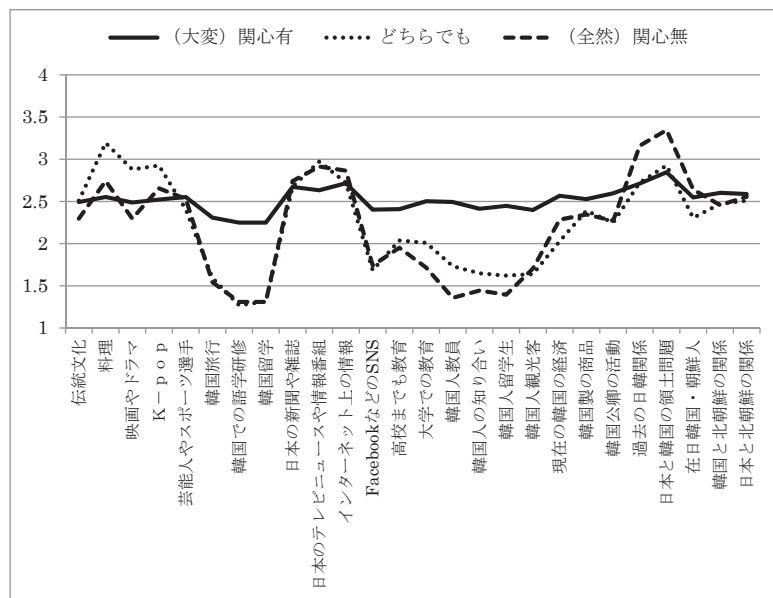


図 13 韓国・韓国人对する関心度と情報源の相関関係

韓国及び韓国人对する関心度の程度によって、「大変関心がある」「関心がある」「(大変) 関心有」、「どちらでもない」、「関心がない」「全然関心がない」(「(全然) 関心無」) の3つのグループに分け、要素の項目別の影響度を調べた。

興味深いのは、「(大変) 関心有」グループはすべての項目において 2.5(3の「中」と2の「小」の間)前後の数値で大体均等に影響を受けていることである。「(全然) 関心無」グループと「どちらでもない」グループのグラフを見ると、大体同じパターンで、同じ情報源から影響されていることが分かるのであるが、「料理」「映画やドラマ」「K-pop」など文化的要素については、「どちらでもない」グループの方への影響度が高く、「過去の日韓関係」「日本と韓国の領土問題」など歴史や政治に関わる要素については、「(全然) 関

心無」グループへの影響度が高かった。

5.2.2. 韓国・韓国人に対する好感度とイメージ形成の要素

図 14 と図 15 は、それぞれ「韓国」と「韓国人」に対する好感度とイメージ形成の要素の相関関係をグラフで表したものである。

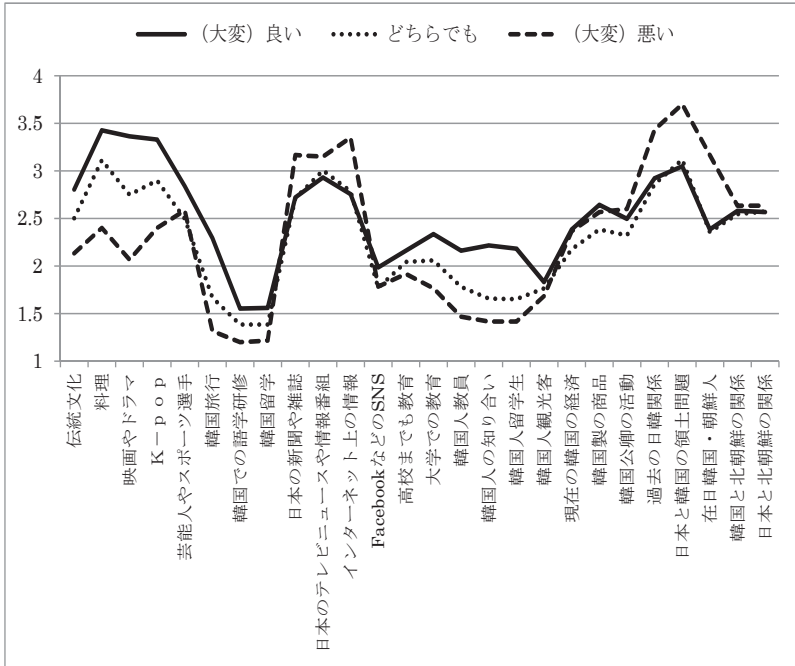


図 14 韓国に対する好感度と情報源の相関関係

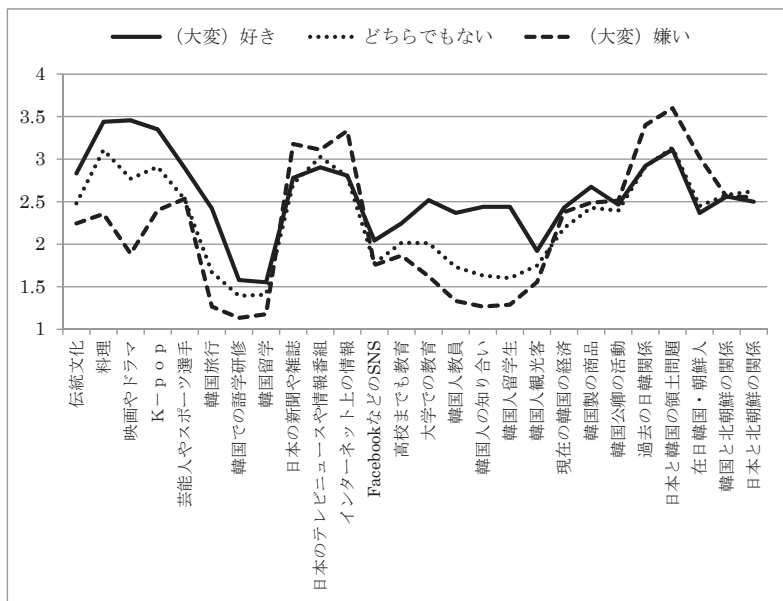


図 15 韓国人に対する好感度と情報源の相関関係

関心度の場合と同じく、韓国及び韓国人に対する好感度の程度によって、「大変良(大変好き)」「良い(好き)」と、「どちらでもない」及び「悪い(嫌い)」「大変悪い(大変嫌い)」のように3つのグループに分け、要素の項目別影響度を調べた。

図 14 と 15 から分かるように、「韓国」に対する好感度や「韓国人」に対する好感度とイメージ形成の要素については、あまり差は見られない。韓国及び韓国人に対する好感度が高いグループでは、「伝統文化」「料理」「映画やドラマ」「K-pop」など文化的要素、「韓国旅行」「韓国での語学研修」「韓国留学」のような現地訪問、「高校までの教育」「大学での教育」のような教育、「韓国入教員」「韓国人知り合い」「韓国人留学生」の人との触れ合いのような要素から強く影響を受けていることが分かった。

一方、韓国及び韓国人に対する好感度が低いグループは、「日本の新聞や雑誌」「日本のテレビニュースや情報番組」「インターネット上の情報」のよう

にメディアと「過去の日韓関係」「日本と韓国の領土問題」「在日韓国・朝鮮人」からの影響がどのグループよりも大きいことが分かった。また、「韓国旅行」や「韓国人知り合い」などの要素からほとんど影響を受けていないことも明らかになった。

5.3. 性別とイメージ形成の要素

図 16 は、日本人大学生の性別と情報源の相関関係を表したものである。

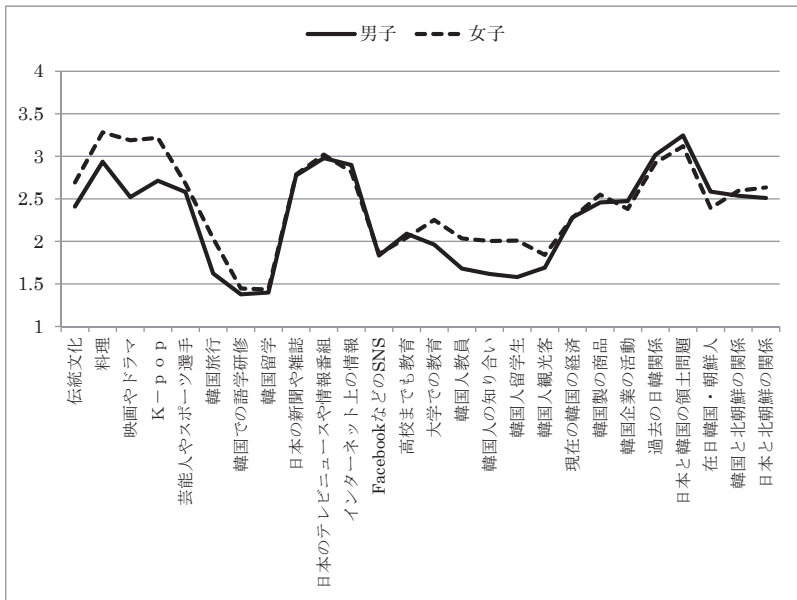


図 16 性別と情報源の相関関係

男女のグラフを見ると全体的に同じパターンではあるが、「伝統文化」「料理」「映画やドラマ」「K-pop」「韓国旅行」のような文化的要素と、「大学での教育」「韓国人教員」「韓国人の知り合い」「韓国人留学生」のような教育や実際の韓国人との接触に関する要素について、男性より女性の方が大きく影響されていることが明らかになった。

一方、「過去の日韓関係」「日本と韓国の領土問題」「在日韓国人・朝鮮人」については、女子より男子がやや大きく影響を受けているが、その差はそれほど大きくない。

6. 終わりに

本稿では、金沢大学学生を調査対象者に、韓国語学習者と非韓国語学習者、男性と女性における韓国及び韓国人に対する関心度及び好感度を調査・分析した。また、そのような関心度や好感度がどのような要素から影響を受けるか、イメージ形成の要素についても考察した。

その結果、次のことが明らかになった。

- (1) 全体的にみると、50%以上の金沢大学学生は韓国及び韓国人に関心を持っており、36%以上と29%の学生が、それぞれ韓国と韓国人に好感を持っていることが明らかになった。
- (2) 韓国語非学習者より韓国語学習者の方が、言語ではなく韓国社会に関して学習したことがある「東アジア」の履修者がそうではない人より、韓国及び韓国人に対する関心や好感をより多く持っていることを確認した。
- (3) 性別によって韓国・韓国人に対する関心度や好感度が異なり、男性より女性の数値が高いことが明らかになった。
- (4) 韓国及び韓国人に対するイメージ形成の要素について、韓国語非学習者及び韓国及び韓国人に対する関心度や好感度が低い人は、メディアなどの限られた要素から、韓国語学習者及び韓国・韓国人に対する関心度や好感度が高いグループの方は、より様々な要素から大きく影響を受けていることが明らかになった。したがって、大学での教育の重要性が浮き彫りになった。

今回の調査対象者は金沢大学学生の1年生が中心であったので、今後より広い範囲での調査を実施することが必要であろう。

注

¹⁾金沢大学では、英語以外の言語科目を「初習言語」と称している。初習言語科目としては、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、ギリシャ・ラテン語、スペイン語があるが、本研究では調査対象者として、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語を選んだ。なお、本稿では、金沢大学の科目名としては、「朝鮮語」と称するが、それ以外では韓国語とする。

²⁾2002年7月の調査では、相互好感度が、日本人の対韓国が77%、韓国人の対日本が42%であった。「朝鮮日報・毎日新聞、韓日共同世論調査」『朝鮮日報』2012年10月6日。

³⁾日本人の71%、韓国人の78%が、竹島（独島）問題が主な要因であると答えている。

参考文献

- 林炫情・姜姫正(2009)「韓国語及び韓国文化学習者の意識に関する調査研究」『人間環境学研究』5(2)、17-31.
- 南相瓊(2009)「韓国人大学生の日本及び日本人に対する意識—日本語学習と日本語日学習者の比較を中心に—」『言語文化論叢』13、129-150.
- 生越直樹(2004)「한국, 한국인에 대한 이미지 형성과 한국어 학습(韓国、韓国人に対するイメージ形成と韓国語学習)」『한국언어문화학』1(2)、151-162.
- 生越直樹(2006)「韓国に対するイメージ形成と韓国語学習」『言語情報テキスト』13(1)、27-41.
- 呉正培・金鉉哲(2009)「韓国語学習者の韓国人イメージに見られる特徴—東北大学における学習者と非学習者の比較—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』4、57-68.
- 『朝鮮日報』2012年10月6日
- 『第1回日韓共同世論調査 日韓世論比較分析結果』言論NPO・EAI(東アジア研究院)、2013.

謝辞

本研究の調査にあたり、ご協力していただきました金沢大学の学生と教員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

参考資料

韓国・韓国人に関するアンケート調査

このアンケートは日本の大学生を対象に、韓国・韓国人に対するイメージを調査するものです。感じられた通り、気楽に回答してください。

*まず、あなたご自身のことについてお聞きます。()に書き入れるか、該当するところに○を付けてください。

0-1. 所属：() 学類、()年生

0-2. 年齢：()歳、 性別：(男 ・ 女)

0-3. 出身地：() 県

0-4. 家族の中に韓国語を話せる人がいますか。 (いる ・ いない)

0-5. あなたは韓国人の知り合いがいますか (いる ・ いない)

0-6. あなたは韓国人と話したことがありますか。 (ある ・ ない)

0-7. 韓国語を学習した(している)ことがありますか。 (ある ・ ない)

——>0-7 の間に「ある」と答えた人

0-7a 韓国語の学習期間はどのくらいですか。

①6ヶ月未満 ②6ヶ月以上～1年未満 ③1年以上～2年未満 ④2年以上

0-7b いつ学習しましたか(複数選択可能)

①小学校時代 ②中学校時代 ③高校時代 ④大学

⑤韓国での語学研修及び留学 ⑥その他 ()

0-7c どこで学習しましたか。(複数選択可能)

①高校 ②大学 ③カルチャーセンター ④個人レッスン
⑤独学 ⑥その他 ()

0-7d 韓国語をもっと勉強したいと思いますか。

①上級まで勉強したい ②中級まで勉強したい
③必要単位を取るまで勉強したい ④勉強しない ⑤その他 ()

—>0-7の質問に「ない」と答えた人

0-7e 英語以外に学んだことがある(現在学んでいる)外国語がありますか。

①ドイツ語 ②フランス語 ③ロシア語 ④中国語
⑤ラテン語 ⑥スペイン語 ⑦その他 ()

0-7f いつ学習しましたか(複数選択可能)

①小学校時代 ②中学校時代 ③高校時代 ④大学
⑤その言語圏での語学研修及び留学 ⑥その他()

0-7g どこで学習しましたか。(複数選択可能)

①高校 ②大学 ③カルチャーセンター ④個人レッスン
⑤独学 ⑥その他 ()

0-7h その外国語をもっと勉強したいと思いますか。

①上級まで勉強したい ②中級まで勉強したい
③要単位を取るまで勉強したい ④勉強しない ⑤その他 ()

0-8. 韓国に行ったことがありますか。 (ある ・ ない)

—>0-8の質問に「ある」と答えた人

0-8 a 韓国訪問の目的は何でしたか。(複数選択可能)

①修学旅行 ②観光 ③語学研修 ④親戚(友達)訪問 ⑤その他 ()

0-8 b 韓国での滞在期間はどのくらいですか。

- ①1ヶ月未満 ②1ヶ月以上～6ヶ月未満 ③6ヶ月以上～1年未満 ④1年以上

0-9. 韓国以外の海外に行ったことがありますか。 (ある ・ ない)

—>0-9の質問に「ある」と答えた人

0-9a 訪れた国はどこですか。(複数選択可能)

- ①中国 ②東南アジア ③その他アジア ④北米 ⑤ヨーロッパ
⑥オセアニア ⑦南米 ⑧アフリカ ⑨その他 ()

0-9 b その国の訪問目的は何でしたか。(複数選択可能)

- ①修学旅行 ②観光 ③語学研修 ④親戚(友達)訪問 ⑤その他 ()

0-9 c その国での滞在期間はどのくらいですか。

- ①1ヶ月未満 ②1ヶ月以上～6ヶ月未満 ③6ヶ月以上～1年未満 ④1年以上

*韓国・韓国人のイメージについて、次の質問に答えてください。

1-1. あなたは韓国・韓国人に関心がありますか。

- ①大変関心がある ②まあまあ関心がある ③どちらでもない
④あまり関心がない ⑤全然関心がない

1-2. あなたは韓国についてどんなイメージを持っていますか。

- ①とてもよい ②よい ③特に他の国と変わらない ④悪い ⑤かなり悪い

1-3. あなたは韓国人についてどんなイメージを持っていますか。

- ①大いに好き ②好き ③どちらでもない ④嫌い ⑤大変嫌い

1.4. あなたは韓国・韓国人に対して、どんなイメージを持っていますか。思い浮かぶことをできるだけ多く書いてください。

1-5. 以下の各項目は、あなたの韓国・韓国人に対するイメージ形成にどのくらい大きな影響を与えていますか。各事項ごとに、影響の度合について、に✓を書き入れてください。

① 韓国の伝統文化	大	中	小	無
② 韓国料理	大	中	小	無
③ 韓国の映画やドラマ	大	中	小	無
④ K - p o p	大	中	小	無
⑤ 韓国の芸能人やスポーツ選手	大	中	小	無
⑥ 韓国旅行	大	中	小	無
⑦ 韓国での語学研修及	大	中	小	無
⑧ 韓国留学	大	中	小	無
⑨ 日本の新聞や雑誌	大	中	小	無
⑩ 日本のテレビニュースや情報番組	大	中	小	無
⑪ インターネット上の情報	大	中	小	無
⑫ Facebook などの SNS	大	中	小	無
⑬ 高校までの教育	大	中	小	無
⑭ 大学での教育	大	中	小	無
⑮ 韓国人教員	大	中	小	無
⑯ 韓国人の知り合い	大	中	小	無
⑰ 韓国人留学生	大	中	小	無
⑱ 韓国人観光客	大	中	小	無
⑲ 現在の韓国の経済	大	中	小	無
⑳ 韓国製の商品	大	中	小	無
㉑ 韓国企業の活動	大	中	小	無
㉒ 過去の日韓関係	大	中	小	無
㉓ 日本と韓国の領土問題	大	中	小	無
㉔ 在日韓国・朝鮮人	大	中	小	無
㉕ 韓国と北朝鮮の関係	大	中	小	無
㉖ 日本と北朝鮮の関係	大	中	小	無

ご協力ありがとうございます。

Perception of Korea and Korean People by Japanese Students

— A Comparison between Korean Learners and Non-Korean Learners at Kanazawa University —

Sumi YOON & Sangyoung NAM

The purpose of the present study is to investigate the perception of Korea and Korean people by Japanese university students, and to examine the differences in perception between students who have studied Korean and students who have not studied Korean. A questionnaire was completed by 390 Kanazawa University students who were taking second foreign language classes, such as Korean, Chinese, French, German, and a class named The Information of East Asian Society at the time of the survey. The results of this research are as follows.

- 1) More than 50% of Kanazawa University students surveyed are interested in Korea and Korean people, and approximately 36% of participants have a favorable impression of Korea and 29% of respondents have a favorable impression of Korean people.
- 2) Participants who have studied Korean are more interested in, and have a more favorable impression of, Korea and Korean people than participants who have not studied Korean.
- 3) Female participants are more interested in, and have a more favorable impression of, Korea and Korean people than male participants.
- 4) Participants who have a positive impression of Korea and Korean people have received information from a wide variety of sources. Participants who have a negative view, on the other hand, tend to get their information from limited sources.